

発行：チボリ国際里親の会事務局編集部  
 事務局：〒110-0016 東京都台東区台東1丁目25-16 大熊ビル205  
 TEL.03-3835-1545 FAX.03-3835-1546 IPTEL.050-1371-1541  
 URL：http://www.jofpa.org E-mail：jofpa-tokyo@jofpa.org

- 1 ……第31回総会の報告
- 2～4 …フィリピン訪問
- 4 ……卒業研修旅行
- 5 ……JOFPAの会員の皆さまに
- 5～6 …会員のひろば
- 6 ……事務局からのおたより



学校に行けないフィリピンの少数民族(チボリ族)の子どもたちを精神里親制度で支援しています

## 第31回総会の報告

平成23年7月9日(土)アジア学生文化会館にて第31回総会が開催された。

議題に先立ち宮城県の佐藤支部長より東日本大震災の時の被災状況が報告された後、会長の挨拶があり、出席者全員で震災で亡くなられた方々に黙祷をささげた。続いて楠元兵庫支部長を議長に選出して開会した。総会の出席者、14名(口数15口)、委任状提出口数225口、計240口で規約による定数を満たし総会は成立した。

平成22年度の活動報告および収支報告の報告と、今年度、東日本大震災の支援金と受難修道女会建設への寄付金について説明があり、承認された。

続いて、河原理事から添付の報告書を基に現地訪問について報告された。(2頁をご覧ください)

### 支援契約終了と理事の任期について

南会長より支援契約終了の対応について説明があり、30年間の支援の結果は徐々に成果を上げていると思う。現地の自助努力も高まり就学環境は整ってきている。これからの1年間を準備期間として支援満了の平成25年5月をもって契約を終了し、更新しないことを現地にすでに伝えてある。

3年支援契約終了後、会の活動をどうするか来年の総会で図れるように、これから一年をかけて協議していく。そのための準備委員会を立ち上げ、理事会と一緒に具体的なコンセプトを示していく必要があるのではないか。準備委員会や、会員のアンケート内容の素案も含め、次期臨時理事会(10月6日)で協議することとする。

JOFPAからの質問状を現地に送ったところ、以下のような回答があった。

- ・チボリの未就学児の数  
具体的に把握できていない。

救済の方法として、保護者に通学をうながす。学校の設立を政府にうながす。

- ・公立学校の数、設立予定  
現在24校。過疎地の設立を目標にしている。
- ・JOFPAとの契約終了後、退散後の対策  
私立学校の補助を増やす。  
学校に農地を作り農作物を売店で販売する。  
保護者に技術を持たせ、コミュニティで収入を得る。SCMSIの学校法人を公立化する。

### 理事の任期について

来年度は理事の3人が任期満了になり改選される。しかし、現在の理事が、今後の会の運営を、新設される準備委員会と一体となって活動に関与していく必要がある。改選にあたる理事は会則第4章により留任することになった。

平成23年度事業計画案と予算案は南会長より報告がされ、一同の賛成を得て承認された。

その他(支部長、会員からの意見要望)

- \*北海道から沖縄まで会員がいる素晴らしい会、チボリの子どもたちの夢が消えてしまうのが残念。
- \*現地の子どもたちをなんとか支え続けたい。完全に会の活動をやめないで続けてほしい。
- \*SCMSIには、支援を受けた子どもたちが教師として就職しているので、失職しないようにソフトランディングを考える必要もある。会員が半数になったとしても新たにこれだけの会員を集めるのは大変なので、何らかの形で活動を存続した方がよい。



坂詰美代子さん撮影

# フィールド 訪問



理事 河原紀夫  
今年の5月28日から  
6月4日に  
訪問しました。

## SCMSIスタッフとの会合

出席: SCMSIガンダム理事長、アバン他5名  
JOFPA 理事河原  
通訳 修道女会のシスター松田、マリリン

## SCMSIの教育と運営

住民には、近くの公立校またはSCMSI校で児童が就学できるように働きかけている。公立校も24校に増え、21校あったSCMSI校も逐次公立校に移管し、現在は6校になり、スタッフ109人と958人の小学生を抱えている。政府は80%の就学をめざしているが、この地区の未就学児童の数は把握されていないが、現在、約35%の未就学児童がいると推測する。今だ、公立校の教室はたりなく、その分SCMSIが補っている。政府の助成は、小学校にはなく、高校で30%ほど助成金を受けている。その他、オーストラリア、オランダから短期的に60万ペソ（SCMSIの支出は年1800万ペソ）の支援を受けている。JOFPAの支援が40%になっている。

## その他

SCMSIでは就職斡旋を行っているが就業先は少ない。職業訓練コースは、専門の先生の給料が高く雇えず実施出来ていない。特別のトレーニングが必要な生徒は大学に入れてもらうように頼んでいる。高校卒業後に1年間の短期トレーニングコースがあり各種の資格が取得できる。このスカラシップもお願いしたい。

先に、ダバオの日本フィリピンボランティア協会（JPVA）のダイスケ・ハセガワとコンタクトを取ったが支援の返事は得ていない。

JOFPAへの提出資料（卒業生の就職状況リスト、送金報告、会長の3つの質問、今学期の大学奨学生状況、卒業研修旅行報告、工作室時間割）については早急に対応する。



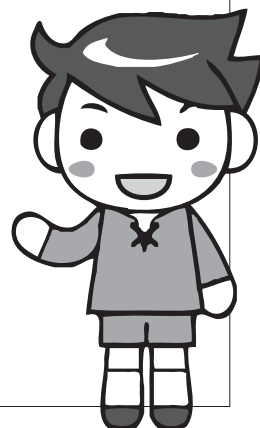
ベネフ小学校の生徒と先生たち(左手前 河原理事)

## 学校法人の自立策と 保護者の経済力の向上

学校法人の経営自立策として政府の助成の拡大を働きかけるとともに、学校収入の拡大事業（農林省の支援の30haの土地を活用した農業事業）に取りくんでいるが規模が小さく市場に出すにいたっていない。

また、保護者の経済力の向上では、ビラールの医療と自立を支える会（HANDS）による、保護者が100人ほど参加するハンディクラフト事業にも取り組んでいる。先のJOFPA支援のコーヒーも物に成っていない。保護者の経済力向上プランを持って計画的に指導していくことが必要である。特に、昨年SCMSIが来日した際に提案された「持続可能な経済開発プロジェクト」の支援をお願いされた。

小学校は公立に移管を政府に働きかけ、SCMSIの公立化も検討する。







## レイクセブ役場の教育部門担当者との会合

政府は、より多くの子どもの教育を受けさせる方針で、今年度から日本と同様に6 / 3 / 3制が導入される。現在、この地区には公立校が24校あり、なお政府は過疎地に学校を建設する努力をしている。レイクセブの自治体は年間20教室の増設を要望し、今年度7教室認可されたが現在建設中は1教室である。24校の内7校で国とNPOの支援により給食を提供している。公立の学生は、5人 / 1学校平均奨学金を受けている。カリキュラムは公立・私立とも同じ。公立ではフィリピン学科として文化教育を行っている。教科書は1冊を4人で使用する。

(1人/年/¥1.8)	小学校		高校
	公立校	SCMSI	
生徒の負担 授業料(年)	180	450~750 (遠方では150)	5,500
先生の給与 (月)	13,000~ 15,000	5,000~ 8,000	
ノート、ユニホーム その他	3,000~4,000		

### 訪問した学校



#### ラヒット公立学校

幼稚園に入らないと公立小学校には入学できない。

#### SCMSIラヒット小学校

ラヒット湖をはさんで対岸には公立校があり、環境はすばらしい。6教室で185人の生徒と5人の先生。給食は週5日。米はSCMSIで負担、野菜は生徒が持ってくる。

#### SCMSIベネフ小学校

山岳地帯にあり雨季で橋が壊れていた。架設の橋を渡り、悪路のため30分歩き、ようやく学校にたどり着いた。3教室で102人の生徒と3人の先生。

#### SCMSIデコロン・ハイスクール

コンピューターは16台ありインターネットも通じていて、週2回授業を受けている。工作室にはミシンが2台あり家庭科を教えている。



ジェネラルサントスから支援地に向かう修道会のトラック



### マニラのスモーキーマウンテン周辺見学

ゴミ捨て場は新たに別の所に移ったが、しかし、その中や周辺には、まだゴミ拾いで生計を立てている人々の密集家屋が広範囲にある。裸で遊ぶ子どもや学校に行けない子どもたちが多い。現在は近代的な建物が点在し、人々の格差の大きさに驚いた。



### サンタクルーズカトリック教会へ訪問

当教区には、25の教会があり、オーガニック農業など18の教会で社会事業を実施している。少なくともよいので、JOFPAの継続的な支援を願う。足りない分は政府の助成や自分たちで補う方策を進めて行く。

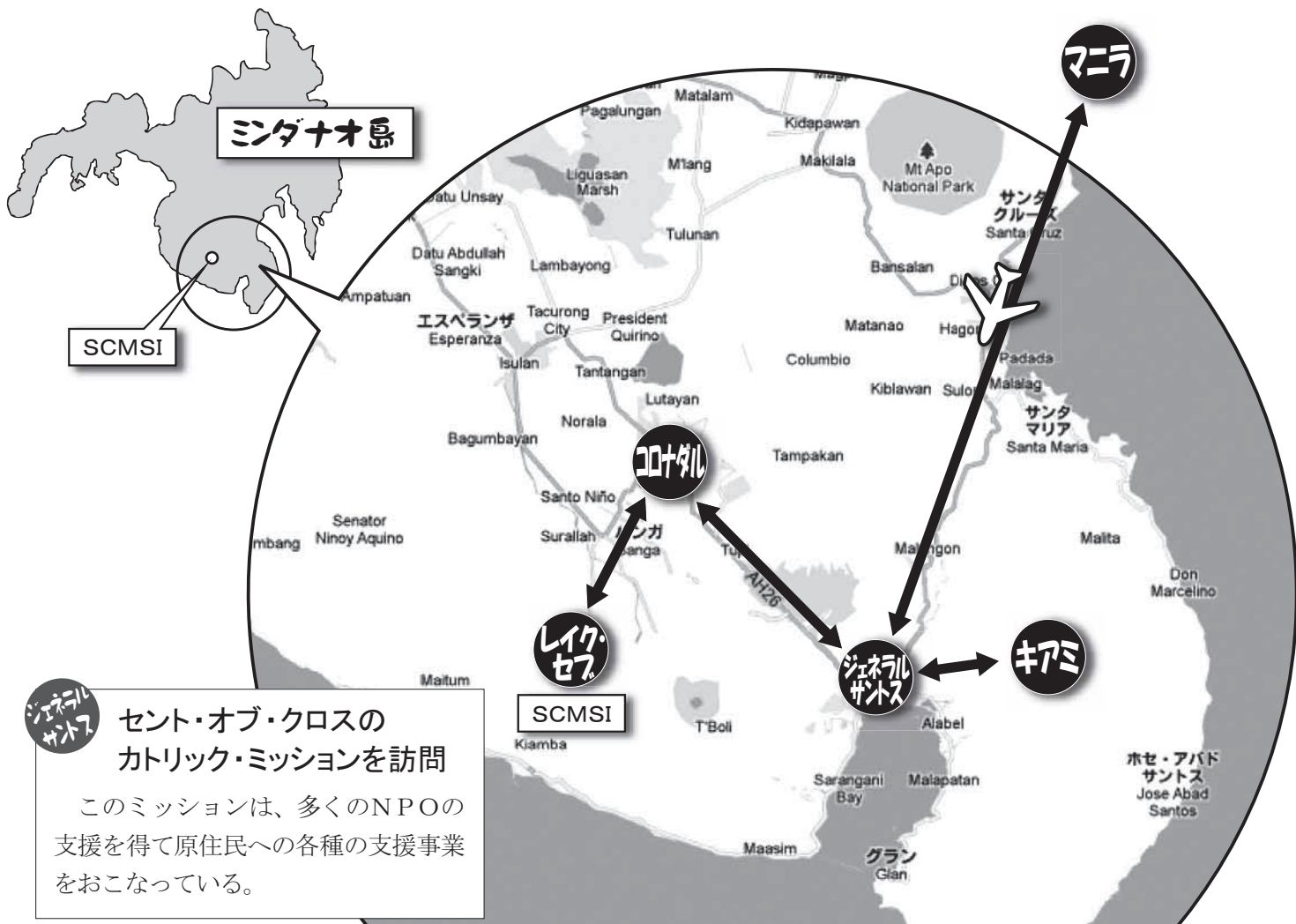


### COWHED(健康と開発のための女性の組合)を訪問

ハンディクラフトは、「ビラーンの医療と自立を支える会(HANDS)」の支援で建設されている。JO FPAの民芸品もこの組合から購入し、バザー等で販売している。



SCMSIのカレッジの先生方と



ミンダナオ島

SCMSI

コロン

レイクセブ

SCMSI

ジェネラルサントス

キアミ

ホセ・アバドサントス  
Jose Abad Santos

ジェネラルサントス

セント・オブ・クロスのカトリック・ミッションを訪問

このミッションは、多くのNPOの支援を得て原住民への各種の支援事業をおこなっている。

コロン

受難修道女会を訪問

シスター松田より新修道女会建設のご支援について感謝を述べられた。2年後に完成し移動する予定を聞いた。

SCMSIの学校法人の運営に力が入っているように見られ、原点に帰って未就学児童の就学に力点を置くべきである。また、支援に頼るだけでなく、もっと自立策を実施する必要があると思われる。学校に行けない子どもに必要な支援金が直接わたるのが望ましいと思う。また、住民の経済力向上の事業の実施が望ましいと感じていると…。

現地訪問の全体的な感想

レイクセブへの道路は舗装整備され、ジェネラルサントスの空港からマーベル市経由、車で約1.5時間で行くことができる。今は、停電もなく、インターネットや携帯電話も通じ、観光地としても開けて多くのフィリピン人の観光客が訪れている。

日本からの現地の訪問もSCMSIがサポートしてくれるので、現地を訪問し、教育現場を見て、生徒との交流ができればよいと思った。

卒業研修旅行

4月15～16日、成績優秀な生徒の卒業研修旅行が例年通り行われました。ドールフィリピン企業訪問、大学訪問、海水浴などの1泊旅行に参加した子どもたちから、感謝の気持ちを込めた感想文と写真が届きました。会からは昨年同様、「矢野基金」10万円を送金しています。(事務局)



卒業研修旅行(ウォーターグランリゾートにて)



## JOFPAの会員の皆さまに ご寄付ありがとうございました！

シスター松田 翡  
フィリピン御受難修道女会



シスター松田、河原理事、SCMSIの皆さん

今回、私共の修道女会の建替えのため、寛大な、そしてお心こもるご寄付をいただき本当にありがとうございました。JOFPAC創設以来30年余り、恵まれないチボリの子どもたちの教育に献身的にご協力いただき大変感謝しております。

35年前に、初めて初代会長の藤原先生と北沢杏子さんがレイクセブの修道女会にお立ち寄りくださいました。あの頃はミンダナオ島に旅すること自体大変なご苦勞で、先生のお骨折りが偲ばれます。こちらにお立ち寄りいただきました時、外の薪炊きストーブでお湯を沸かし、バケツで運び出し、お二人に旅のほこりとお疲れをとっていただき「あの時は地獄でホトケに出会った時のようだった」と、述懐しておられました。その後、簡単なお食事を済ませられ、レイクセブに向かう旅を続けられました。そこで感じられたことは「ここで今一番必要なことは教育だ」ということでした。年2回、レイクセブを訪問され、10年前までJOFPACの現地訪問が行われていました。そのような関わりのため、JOFPACと受難修道女会との絆が強められ、

SCMSIとJOFPACの橋渡しのようなお役目をさせていただきます。

現在の木造の建物は40年前にアメリカ人の創立者シスターマリリンによって建てられたもので、この数十年間、老朽化が進み修理が追いつかなくなりました。

幸い14年前にここから車で10分離れた同じマーベルの高地の未開拓の森林地として区分されている土地を手に入れることができました。3ヘク

タール余りの土地に飲料水として使用できる水脈を探り当てました。深い井戸なので、電動で水を汲み上げて使用が可能になりました。近所の人々にも水を分配することができる計画を立てております。

土地を求めて以来、新しい建物を計画はしていましたが、経済的な理由で実行できずにいました。昨年やっと少しの基金が集まりました。今年3月23日、80名余りの知人、友人達の参列のもと地鎮祭を執り行うことができました。現在では土砂崩れ、その他を防ぐため土地の周囲にコンクリートの塀を作っております。建築家の監督のもと、作業員3人が塀を作るため働いております。目下、建築許可願いを市役所に提出中で、許可が下り次第建設を始める予定です。

このマーベルの町の人々からは、セメントや建材の提供、建築家の無料奉仕、市からも建築工事の援助を得ております。こうした善意の人々の協力によって、2年以内に修道女会の建物が完成できればと願っております。

ご寄付を下さった方々お一人おひとりにお礼状を差し上げればいいのですが、皆さまへのお礼状として紙面をお借りしました。こちら修道女会の記録保管所にはご寄付いただきました方々のお名前を大切に保管させていただきます。皆さま、ありがとうございました。心から感謝をこめて。

## 会員のひろば

### 小金沢保重（長野県）

20代後半で発足時に入会しました。あと3年で還暦、退職です。仕事中心の毎日で、あまり良い里親ではありませんでした。今後も微力ながら援助してゆきたいと思っております。

### 岩崎稔生（山口県）

チボリ国際里親の会の発足時の想いを今まさに思い出す必要があると思っております。平成25年の契約終了後のこの会のあり方、方向性に期待を寄せています。貧困が人間をだめにすると思っております。

### 中崎みどり（千葉県）

もう61才になってしまいましたが、平成25年、5月まではなんとかがんばりたいと思っております。

### 福岡弥恵子（兵庫県）

里子の方からの手紙を見て、うれしく思っていました。平成25年までと期限があるのは寂しく感じます。しかし最後まで続けたいと考えていますので、よろしくお願ひ致します。

### 安藤由美恵（兵庫県）

今年には待望の初孫の誕生となりました。チボリの子どもたちと同じように、スクスクと大きな人になってもらいたいと思っております。

## 事務局からのおたより

### ■東日本大震災への義援金

現在、7万5千円ご寄付いただきました。被災地へは、もう少しご寄付をお待ちして、20万円の支援を予定しています。皆さまからのご協力をよろしくお願いいたします。

### ■お願い！

- ①総会で支援契約終了後の会の活動を検討する準備委員会を立ち上げる話が出ました。皆さまのなかで委員会に参加して、JOFPAの今後の行方をもとに考えてくださる方、事務局までご連絡ください。
- ②会の設立当初にチボリを訪問された方で、当時のチボリの写真がありましたらお貸しください！

### ■会員の活動紹介

7月7日、宮城県の佐藤孝子支部長さんが、ホームスティを通じて異文化交流を深めるNPO団体「ザ・フレンドシップ・オブ・ミヤギ」の団体に所属され、この団体が国内外から集まった100万円を仙台市に寄付されました。「FF宮城」の新聞に写真入で掲載されました。



教室風景(理事河原撮影)

## 会員のひろば

### 日名恵次(岡山県)

チボリ訪問の予定はないでしょうか。

答え:SCMSIでサポートをしてくれますので、現地を訪問し、教育現場を見て、生徒との交流ができればよいと思います。

### 山口支部長 山田伊津子

チボリ支援については、小学校に行けない子どもをなくし、基礎教育は受けさせてあげたいと思います。本来はフィリピン政府が、国民にすべきで、小学校は公立化するように働きかけるべきだと思います。

我が国も不安がつきませんが、他の人の役に立ちたいと、みんな思っているはずです。アンケートで、残る人数がわかれば、それなりの規模での支援に切り替えたり、駄目なら、解散も仕方ないと思います。

### ■バザーのお知らせ

★むさしのルーテル教会バザー

11月3日(祝) 10時から3時

★文京区ボランティア市民活動まつり2011

11月19日(土) 10時から3時

### ■事務局夏休み

11日(木)から19日(金)まで休みになります。

## JOFPAへのご支援・ご協力ありがとうございます

敬称略(2011年5月1日～2011年8月3日)

### ■新入会員 (< >内はご紹介者又は入会のきっかけ)

なし

### ■ご寄付者(ご寄付・随時ご協力の賛助費についてお名前を紹介させていただきます。)

(大震災義援金へのご寄付含む)

石田節子 植木久美子 内海典子 江波戸勲 大須賀育代  
岡林鈴江 幸内幸子 桂典子 河原紀夫 篠原寿美子 杉山幸子  
関根千恵子 高井和子 武田一枝 田中美智子 富永正子  
友野喜子 野家啓一・裕子 南昌宏 向山由里子 橋本あき広  
福田昌佳 森田聡子 森崎純子 吉岡ゆり 匿名2名

### ■切手(未使用、使用済含む) その他

石川京子 岩田正史 内川明彦 内海典子 大須賀三歡 大友孝子  
大橋路代 荻原美優 小林知津 小玉なほみ 坂詰美代子  
佐藤亜矢 正垣恵津子 須田晃 芹田美津子 納谷マキ 平由美  
藤倉寿美子 田淵典子 塚元百枝 南昌宏 目野記美恵  
安井恵美子 山崎静子 吉岡ゆり 協伸産業

### ■ボランティア(会報、バザー、翻訳、その他)

安藤美知子 恩田和美 佐伯三郎 坂詰美代子 武田とよ子  
長崎すみ子 長島信夫 富江崇 増田憲治 吉永洋子 渡辺洋子

### ■編集後記

いよいよ編集の仕事を開根さんより引き継ぐことになりました！初めてのことばかりで緊張しております。大須賀さんの足を引っ張らないように頑張りますので、よろしく願いいたします。(向山)

会員の皆さまはこの会がどういう方向へ進んでいくのか、不安だと思います。チボリニュースがSCMSIとJOFPAの現況をわかりやすくお伝えしていますかどうか？

しかし、チボリニュースをよく読んでいただきJOFPAの今後のあり方を熟考されますようお願いいたします。(大須賀)

サラマッ!  
チボリ語で  
ありがとうの意

お名前掲載を希望されない方は、お手数ですがその旨事務局までご連絡をお願いいたします。